

2010年3月期 第2四半期決算 IR 説明会(2009/10/30 開催)

質疑応答内容

Q: 生活産業部門は不動産で違約金利益が出ており、これを除けばまだ厳しいという印象だが、販売用不動産の追加評価損、肥料の改善等、第2四半期の内訳は？

A: 肥料を含む食料資源で回復傾向にあり、部門全体では下期で対上期約70億円の改善を見込んでいる。また第2四半期で販売用不動産の追加評価損はない。

Q: 通期の修正見通しでは販管費の削減額を90億円積み増しているが、今後の戦略の優先順位は？在庫削減等財務リストラがメインとなるのか、あるいは新規投融資等成長戦略を優先するのか？

A: 在庫に関しては、基本的に適正水準まで圧縮する方針に変更はないが、今後は一斉に在庫を削減するというのではなく、案件毎の適正水準を意識しながら、在庫をマネージしていく。また、戦略の優先順位については収益の回復度合いにもよるが、各セグメントで回復材料が出ており、現時点より改善していくと見ている。これらの改善と並行して、既存事業を将来大きく補うものとして、環境・新エネルギー、農業事業への布石をこの3年間で行なう。

Q: 下期の新規投融資 570 億円の内訳は？また、来年度の新規投融資額は？

A: 今期の計画では資源・非資源で55%:45%。環境・新エネルギー分野では1割強となり、今後、この分野の投資を2割、3割へ増やしていきたい。来年度の新規投融資額については、現時点でのコメントを差し控えるが、今年度よりは多くしたい。

Q: 今期の決算を見ると、有価証券売却益が当期純利益を支えているという格好になるが、来期もまだ、有価証券含めて資産売却益が出る可能性が高いと考えておくべきか？

A: 資産の入替えとして、過去から年間でネット特別損益を大まかに定め、選択と集中を実行してきており、基本的に益出しのための資産売却は考えていない。

Q: リスクアセットがこの半年で300億円増えているが(09/3末 3,500億円⇒09/9末 3,800億円)、増加した要因は？

A: 300億円のうち大半は株価上昇、為替円安によるもの。

Q: 販売用不動産の一部を投資用不動産へ振替えたとのことだったが、不動産関連の09/9末のエクスポージャーは？

A: 今後も営業に残し継続するマンション・商業施設事業と、Exitする事業の2つに分けたが、09/9末約1,200億円の資産のうち、500億円強がマンション・商業施設で、残りの600億円強がExitしていく事業の資産。

Q: LNG ジャパンとメタルワンの下期の回復の背景と、通期修正見通しの中でどの程度回復を織り込んでいるか？

A: 当社の持分法適用会社は、市況に連動している部分が大きく、LNG については原油価格が上昇しているため改善傾向にはあるが、その改善は大きくは織り込んでいない。また鉄鋼製品について下期は上期ほど悪くはないと考えているが、通期見通しを下方に見直している。

Q: 下期ネット特損益▲50 億円を見込んでいるようだが、どのような損失を織り込んでいるのか？

A: ネット特損益▲50 億円については、特定のものはなく、期初の見通しをそのまま据え置いているとご理解頂きたい。

Q: 今回の下方修正により、下期経常利益 200 億円以上の見通しとなっているが、その中に自動車事業のダウンサイドリスクはどの程度織り込んでいるのか？

A: 自動車事業について、ベネズエラでは下期の改善を見込んでいるが、残念ながら通期では赤字になると見ている。ロシアについては、下期は上期より悪い数字で見ている。自動車事業は今期での回復は難しいと見て、下期の計画に織り込んでいる。他方、全体としては上期でほぼ底打ちしており、計画の蓋然性は高いと考えている。

Q: エネルギー・金属資源の生産量の増加が下期、来年度の収益に与えるインパクトはどの程度か？

A: 石炭の生産量は今年度 250 万トンから 2010 年度 370 万トンと 5 割増加し、現状の価格が続けば、来年度の利益を相当押し上げると考えている。石油・ガス関係についても現状の価格を前提とすれば、来年度はその増産効果が出るものと見ている。

Q: 海外子会社の決算は 12 月決算なので、現段階で第 3 四半期の状況がある程度見えていると思うが、その実績を鑑みて下期の計画をどう見ているのか？

A: 下期見通しには、現在の海外自動車事業や肥料事業の状況を加味しており、そう大きくは変わらないだろうと考えている。

Q: 石油・ガスの持分生産量が 2010 年 3 月末で 21,000bbl/d と下方修正しているようだが、要因は？

A: メキシコ湾深海油田の生産が遅れているため。またガス価格が期初見通しに比較し低く推移しているため、生産量を落としているので、ガス市況によっては生産量の増加余地はある。

Q: モリブデンのみ計画比市況が下ぶれているが、現状のモリブデン市況の動き及び今後の見通しについて教えて欲しい。

A: モリブデンについては1-6月の市況平均が\$9/lbと大きく落ち込んだ影響が出ているが、鉄鋼市況の回復と共に7-9月平均は\$14.7/lbと見通し\$13/lbを上回っている。モリブデンは高級鋼材の原料であり、需要は根強いと考えている。

Q: Exit 予定の販売用不動産 600 億円の処理はどれぐらいで進むのか、また追加ロスの可能性は？

A: 不動産市況については決して甘く見ておらず、空室率、テナント料の水準の低下など日々確認しており、状況については十分把握している。基本的には市況が上向き、フローとして大きな利益が得られることは期待しておらず、案件毎に状況を分析し、キャッシュフローを確保できる可能性のある案件を、長期で保有し、その間にバリューアップを行い、Exitを図っていく。

Q: コミットメントラインについて、今期の資金調達の中ではあまり活用を考えていないということではよいのか？

A: 当社は短期有利子負債の80%を目安として手元現預金を保有する方針としており、その水準は3,500億円だが、09/9末現在の現預金は約4,400億円と、900億円強超過しているため、資金計画上もコミットメントラインを利用しなくとも、十分マネージしていける計画としている。

以上